



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第7号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第7号). 泌尿器科紀要 1957, 3(7): 480-480

ISSUE DATE:

1957-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111471>

RIGHT:

編集後記

大阪医科大学（高槻市）石神襄次助教授は教授に昇任せられ泌尿器科を担当せられることになった。斯学のため同慶の至りである。



今春の各学会も終つてその記事が雑誌に載っているがその中の学会のありかたに就ての意見をここに記して我々の参考にした。各学会とも会員と出題が増してその運営に苦勞し、会場を分けたり口演を制限したりしている。わが泌尿器科はまだ会場を分けねばならぬほどではないが、口演数はやはり制限せねばならぬ。小児科は三日間一会場にて宿題、特別講演の他に一般演説として医育、研究機関指導者30名、各12分間、一般の研究者60名、各8分とし、スライドの枚数を制限した。演者は聴者の身になつて分りよく演説してほしいと希望し、観光は悪くはないがその時間を考慮されたいと云う。結核学会は会長の方針によつて権威主義を打破り、シンポジウムの形式をとつて学会を話し合いの場とし、更に判る学会にせられた事を讃めた。血液学会は会場分裂方式を反省し、演題が多すぎるので座長中心に各部門の研究をまとめてゆくべしと云う。薬理学会は口演要旨各題2000字を予め作成した。解剖学会は一題8分は短かすぎて印象に残る演説の少いのはこのためにもよるであろうと云い、座長は演者と聴衆の橋渡しを積極的にしてほしいと希望した。皮膚科は評議員会に就ての討議を行い、学会場内の禁煙が勵行せられた。演説時間が少いから簡明に発表する訓練が必要であるとし、演題決定は内容本位に会長が選択するのがよいのではないかと云い、招待会は出席者から会費を徴収することを奨めている。

泌尿器科にては全国的に何れの研究機関からの発表もあまり優劣がなくなつたと云う。確かにその感があつた。やはり出題数が多すぎてそのために追加討論が少くなり低調に陥る。それにも拘らず時間超過者がかなりあり、又貴重な時間を費しながら演説が聴衆に聞えないものが多数あつた事を遺憾としている。この点は学会として極めて重要なことである。

購読要項

1. 発行は毎月（年12回）とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部